

知事記者会見の概要

日 時：令和2年7月3日(金) 18:52～19:20

場 所：502会議室

出席者：知事、総務部長、防災くらし安心部長、広報広聴推進課長

出席記者：15名、テレビカメラ6台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 新型コロナウイルス感染症に係る注意喚起等について

フリー質問

- (1) 発表事項に関連して

< 幹事社：山新・時事・SAY >

☆報告事項

知事

大変お忙しい中ご参集いただきまして、ありがとうございます。私からですね、2点述べさせていただきますと思います。

1点目は本日閉会した県議会6月定例会での補正予算の内容で、概略でございます。もう1点は新型コロナについてであります。

まず1点目ですけれども、本日、県議会6月定例会が閉会いたしました。途中で追加提案を2回行いましたので、その結果、6月補正予算の総額は574億6,300万円となりました。大変大きな額であります。その主なものをご紹介します。ぜひ県民の皆さんにお伝えいただきたいというふうに思います。

1つ目は、新・生活様式の定着関連でございます。

新型コロナによる経営上の影響が特に著しい中小企業・小規模事業者等が、新・生活様式に対応するため、対面箇所へのアクリル板やパーティション、換気装置の設置など、感染防止対策の設備の導入等に対して、市町村と連携して支援をいたします。

2つ目は、産業振興、経済活性化でございます。

県民の県内での消費活動を喚起し、地域経済の回復につなげるため、飲食店、小売店、生活関連サービス等で使える、250円割引の500円クーポンを合計480万枚、額面にして24億円分を発行いたします。

観光消費喚起に向けて、「県民泊まって元気キャンペーン」としまして、宿泊代金が1万円以下の県内宿泊施設で利用できる、500円割引の1,000円クーポンを150万枚発行するとともに、貸切バス・タクシーの需要回復を図るため『バス・タク旅』やまがた巡り事業」としまして、県内貸切バス・タクシー等を活用した旅行商品の販売を促し、県内経済の早期回復を図ってまいります。

3つ目は、学校教育環境等の整備であります。

今後、第2、第3の波が来ても、家庭において高校生が安心してオンラインで学習できるよう、県立・私立ともに生徒への貸出用のタブレット端末等を整備するとともに、夏場の学習環境の確保に向けて、県立高校のエアコン整備の前倒しや、私立高校のエアコン整備への支援を行うことといたします。

4つ目は、医療提供体制の強化等であります。

政府の第2次補正予算において、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に尽力されている医療機関や社会福祉施設などの職員の方々に慰労金を給付する事業が計上されましたが、

それに加えて、本県独自に、児童関係施設の職員の方々に、それは民間の保育所・幼稚園・認定こども園・放課後児童クラブの方々でございます、その職員の方々に慰労金 5 万円を給付することといたしました。

学校休業となった時にですね、それからコロナが感染拡大している時でありまして、密にならざるを得ないそういう状況の中でも子育てをサポートしていただいた、そういった方々のご苦勞に対しての慰勞ということであります。

それから 5 つ目は、学生・企業への支援であります。

県内大学生の就職活動を支援するとともに不安を解消するため、新型コロナウイルスの感染防止策を講じながら、対面式の合同企業面接会を実施することといたしました。

これはですね、オンライン知事室を 4 地域でやりましたけれども、必ず学生さんが入っておりましたが、学生さんたちが本当に全員ですね、就職活動が不安だというようなことをおっしゃっておられました。オンラインだけでなく、やはり従来に近い面接会、説明会といったものを望んでおられましたので、やはりなんとかして新卒予定者と県内企業のマッチングを図っていければというふうに考えたところであります。

これは本当に概略、主なものだけ今申し上げましたけれども、項目はもっといろいろございます。詳しくはまたお渡しさせていただきたいというふうに思います。

さて、2 点目にいきますけれども、新型コロナにつきましては、昨日、そして今日と 2 日間連続で東京都で 100 人を超える感染者が確認されました。

山形県内ではこれまで、2 カ月に渡って感染者が確認されていない状況でありますけれども、6 月 19 日から県を跨いだ移動が全国で解除されておりまして、本県でもいつ新型コロナの感染者が確認されて発生してもおかしくない、そういう状況だというふうに捉えております。

実は私自身ですね、来週の月曜日に金澤県議会議長と一緒に東京に政府要望のために日帰り出張する予定でしたが、昨日、今日のこういった状況を見まして、やはり大事を取って延期するということといたしました。

県民の皆様には、東京都など感染者が増加傾向にある地域への不要不急の移動については、しばらくの間、できる限りでございますけれども、慎重にさせていただきますようお願いいたします。

また、日常生活でですね、3 つの密の回避、そして身体的距離の確保、マスクの着用、こまめな手洗いなど、本当にこれが新しい生活様式といわれるものですが、これがやはり感染予防の基本となりますので、しっかりと実践していただきたいというふうに思っております。

それから企業の皆様には、ぜひ業界ごとのガイドラインといったこともございますので、ぜひそのことを徹底していただければというふうに思っております。

そういう基本的な感染予防対策というものをしっかりと行いながら、経済活動もですね、回復を図っていくという、両方両立させていきたいというふうに思っておりますので、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたしますと思います。

県民の皆さん、事業主の皆さんと一緒にこのコロナの波を、これからも続くんですけれども、乗り切っていきたいというふうに考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。以上です。

☆フリー質問

記者

共同通信の阪口です。今、2点目の件、コロナ、東京での感染者増加の件なんですけれども、できるだけ慎重にしてほしいという、今、知事から言葉ありましたけれども、今でも慎重さというのは引き続き求めているんじゃないかと思うんですけれども、これまでと比べてどのように具体的にされるのか、それこそ県境を跨いだ移動は自粛を願うというところまでいくのかどうかという点が1点とですね。その上で経済活動の回復を図っていくとおっしゃったと思うんですけれども、この両立する上で、今、県内で旅行、観光客がかなりまた増えてきたという面があると思うんですけれども、それによって経済が回り始めたところがあると思うんですが、そこを抑えることによってどうやってこう、両立を図っていくのか、もうちょっと具体的に教えていただければと思います。

知事

はい。1点目でありますけれども、県域を跨いだ移動ということで、すべての県域は慎重にということではございません。やはり東京都など、今、感染が増加傾向にあるそういう地域へ行く時はですね、やはりできる限り慎重にさせていただきたいと。不要不急でなければ延期するとかですね、あるいはもしどうしても行かなきゃいけない時には夜の繁華街は避けていただくとかですね、そういったことはやはり行動をしていただければというふうに思っております。

それから2点目でありますけれども、大変難しい質問だとも思っております。ただ、やはり感染予防というものを対策を取りながらですね、経済活動もしていきませんと、本当に生活が成り立たないということがたくさん出てまいりますので、しっかりと感染予防対策を取りながら、できる限り平常に近いような生活行動、消費行動を取っていただきたいというふうに思っております。自粛だけずっとやっておきますと本当に企業も成り立たなくなります。昨日私、会合の後ちょっとタクシーに乗らせていただいたのですけれども、本当にお客さんがいなくなって大変だということをおっしゃっておられました。できる限り感染予防対策を取りながらですね、消費行動も取っていただくというようなことをしていただきたいと思います。県民の皆さんに対してのプレミアムクーポンというもの、あるいは泊まって元気キャンペーンというようなことも行うわけありますので、それを、泊まったり旅行したりする方々自身も新しい生

活様式というものをしっかりと守っていただき、また宿泊施設のほうでもですね、そういったことにガイドラインというものをしっかりと守っていただきながら、お互いにそういったことに留意しながら、経済活動をやはりやっていただきたいというふうに私は思っております。

記者

河北新報の岩田と申します。先ほど来週の国への要望ですかね、延期ということで、いつぐらいに延期されるとかって決まっているのですかね。

知事

そこまでは。と言いますのは、やはり行先であります東京都がですね、どういうふうに感染拡大していくのか、増加していくのかというようなそういう状況もやはり見ながら、考えていきたいというふうに思っております。

記者

分かりました。あと補正予算のお話がありましたけれど、閉会後に改めて内容説明されるというのがあまりこれまでなかったかなと思ひまして。

知事

そうですね。

記者

そこに対する、こういう説明の場を設けた理由とですね、あとこの定例会では3回にわたってですね、補正予算を提出されていて、3回目は今日閉会日に出されてですね、議会のほうからは審議時間が足りないとかですね、議会軽視じゃないかとかという批判の声もかなりいろんな機会が出たかと思うのですけれども、その批判についてですね、どういうふうに知事として受け止めていらっしゃるか、その2点をちょっと教えてください。

知事

分かりました。1点目ですけれども、最初にですね6月補正ということで、その時は346億7,700万円だったと思いますが、29日の提案の時には223億5,200万円でありました。そして本日の追加提案は4億3,000万円だったというふうに記憶をしております。大変大きな額でありますので、やはり追加を2回やって、その3回の合計をいたしますと、大体575億円ぐらいになるかと思ひます。そのように大きい額での追加もいたしましたので、今日閉会したのですけれども、改めてですね、全貌の主なものだけでございますけれども、県民の皆さんに皆さま方からお伝えしていただきたいなと思ひて、このような記者会見に至りました。

2点目でありますけれども、そういったご批判もあったわけでありまして、その理由については今日の知事説明（補足：県議会6月定例会本会議）でも申し上げました。その内容でありますけれども、遅れたというのがですね、医療機関のその医療収益の把握というもの、調査というものをしておりましてけれども、それが分かったのが6月30日だったということでありまして、また政府の2次補正ですね、それがなかなか見えなかったというのがありまして、その2次補正の配分額が分かってから、財政的な目途も付いたということで、その前からやはりここはやらなきゃいけないかなというふうに、みんなで話し合っていた重要なところですね、追加させていただいたというそういう状況であります。

記者

あくまで政府の配分額の関係とかですね、データが揃うまで時間がかかったとかですね、なかなか提出のタイミングというのは外的な要因でどうしようもなかったというような、そういうご認識でということ。

知事

はい、そうですね。

記者

なかなか今後、なかなか先が見通せない中ではありますが、改善していくようなお考えとかというのはあるのですか。

知事

改善って何の改善でしょうか。

記者

駆け込みですね、こう提出していくような形になったのかなと思うのですけれど。

議員からは今後ぜひ注意していただきたいとかですね、そういった声も委員会ではあつてですね。それを受けてどう考えるのかなというところをちょっとお聞きしたいのですけれど。

知事

そうですね、やはり本当にこの新型コロナの状況で、予算の配分というのは政府からの配分ということもありますけれども、今後もですね、またどういふふうになっていくかも分からない、先の見通しがなかなか分からない中でも、やはり柔軟に対応していかなくちゃいけないということは、行政として柔軟にスピーディーにやっつけていかなくちゃいけないということはあると思っています。それで議会の皆さん方のそういったご意見に対しましては真摯に受け止めて、できる限りですね、こういったこともなるべく早く検討しているとい

うことをお知らせしていけるのかどうかですね、やはりその状況でないと分からないところがたくさんあるのですけれども、今回も、ただ大抵の議員さん方は賛成だというようなことをおっしゃっていただいたわけでありまして。時期がやはり1つの問題だったのかなと思いますが、ただ今日ご説明申し上げましたので、ご理解いただいたというふうに思っております。何もその理由がなくてぽんと出すのはやはりおかしいわけでありまして、ただその理由がありますので、その理由をご説明申し上げて、それでご理解いただくということはやはり大事なかなと思っております。

記者

読売新聞の山口と申します。よろしくお願ひします。2番目の知事の発言の中でですね、感染者が増加傾向にある地域への移動は慎重にというお話だったのですが。現時点で、その感染者が増加傾向にあつてなるべく慎重にお願いしてほしいという地域はどこに当たると今お考えでしょうか。

知事

やはり今は東京ですかね。やはり昨日が100名超え、また今日も120名を超えたということでもありますので、やはり明日、明後日どうなるか、まだお休みの時にはちょっと低くなったりもしますので、まあ来週あたりもどうなるのか、やはり非常に注視しながら、どうしても人の移動があると、第1波の時もそうございましたけれども、やはりいざお一人発生すると、もうどんどんと拡大していくというようなことになって、また、経済活動にも、医療体制にも、まずそれでありましてけれども、何よりも県民の皆様の命と健康を守るための医療体制が崩壊しないようにしていきたいと思っておりますし、経済活動もこれ以上停滞したら、本当に大変な状況に危機的な状況にある方々がたくさんおりますので、できる限り感染予防対策を取りながら、経済、行動をやはり皆さん、できる限り取っていただきますように、そういうことを私はこの場でお願いしたいというふうに思っております。

記者

知事も慎重に言葉を選ばれた発言だと思うのですが、意味の確認なのですが、「慎重にお願いしたい」というのは「できれば控えていただきたい」という意味で理解してよろしいでしょうか。

知事

はい、できる限りですね、絶対駄目というわけにはいかないですね。やはりどうしても必要なことはありますので、お仕事でありましたり、あとプライベートのことでありまして、どうしても必要だということはあるので、もし延期できるものならば延期をしていただいたり、オンラインでできるものならば、そういった文明の利器を使っていたら

いたりというようなことをですね、なるべく活用していただきながら、この感染が増加している時は、できればそういうことを控えていただければというふうに思っております。

記者

感染の先は見通せないと思うのですが、また改めて「行っていいよ」とか、その解除みたいところは知事が改めて宣言されるのでしょうか。

知事

非常事態とかですか。

記者

非常事態というか、今、往来を慎重に、控えるように呼びかけられたということで、それが実際に抑えられてきたら、また「どうぞ」というような宣言をされるのかどうか。

知事

そうですね、「どうぞ」とまでは言えないかと思っておりますけれども、どのぐらいまで収まったらというようなことも、なかなか大変ではありますけれども、医療専門家の方々のお話などもお聞きしながら考えていきたいというふうに思っております。

記者

最後に1点だけ、月曜日の要望をですね、延期されたということだったのですが、これは吉村知事のほうからお話をして、ちょっと延長したいのですが、というお話をしたということでしょうか。

知事

そうですね、昨日の100人超えの時から、もしかして明日もかな、という心配をしておりましたけれども、まさに今日120人超えまでいってしまいましたので、これで明日明後日とどうなるのか、休みが終わってからどうなるのかと、やはり考えますと私がですね、県民の皆さんにできる限り、そういうところへはなるべく慎重にということをお願いしながら、自分も行くというようなことも、これはやはり危機管理ということで、これはやはり自分自身も大切な要望ではあるのですけれども、月曜日でなければならぬということではございませんので、本当に予約を取っていただいた先方様には大変申し訳なかったのですけれども、その訳をお話申し上げまして延期をさせていただいたということでもあります。

記者

ありがとうございます。

記者

今のお話と関連しているのですけれども、山形県ではずっと2か月ほど新規感染者が出ていない状況にあるわけですが、知事が心配するように東京ではそのような状況が続いていると、仮に明日明後日、土曜日曜なのですけど、来週以降どんどん増えて行っ
てですね、100人がずっと続いて、200人とかなっていった場合にですよ。

知事

それは東京の話ですか、山形ではなくて。

記者

それは東京の話です。その時に、例えば県をまたいでの移動禁止とか、あるいは高速道路
路でしたっけ、やりましたよね。

知事

検温、はい。

記者

県の独自の何か対策は改めて考えたりしていらっしゃることはあるのでしょうか？

知事

今の時点では、そこまでは考えておりません。やはり感染予防対策、新しい生活様式と
いうことがですね、基本になると思っておりますので、それをしっかりと徹底しながら、
やはりできる限り平常の生活を送っていただきたいというふうに思っております。

記者

知事のおっしゃっているのは、県内の在住者の人に向けての話が中心になるわけですが
ども、県外から入って来られる方々に対しては、先ほど言った県境では検温とかあったわ
けですけど、空港とか駅だとか、それについてはどうなんでしょうか。対策を考えていく
必要とかあるのではないかなと思うのですが。

知事

そうですね、今の時点では考えておりませんが、やはり人の移動というのが、いつもネ
ックになると思っておりますので、ますます首都圏がですね、拡大していったり、また本
県でも発生して、増え続けたりということになったら、また何かしら考えるかもしれない
ですけども、今の時点ではそこまでは考えておりません。あの時は、ゴールデンウィーク

というのがありましたので、ゴールデンウィーク時にはたくさんの人の移動というのが毎年ありますのでね、そこまでやりましたけれども、今の時点では感染予防対策と経済回復、経済再建というか回復、これをですね両立させなければいけないというのが、目の前の大きな課題だと思っておりますので。

記者

あるいはそのゴールデンウィークの時には、東北6県の知事が話し合ったという、呼びかけられたわけじゃないですか。

知事

はい、そうでした。

記者

そういったことはまたされる予定などはないでしょうか。

知事

そうですね、これからどういうふうに状況が変化していくかによっては、それは東北6県は非常に、いつも連携し合っているものですから、いろんな状況の中でしっかりと連携できる時には連携し、助け合っていきたいというふうに思っております。

記者

わかりました、ありがとうございます。